

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本胃癌学会  
理事長 小寺 泰弘

### 分科会としての活動

#### I. 過去5年間の活動について

・国際胃癌学会（IGCA）との共同機関誌である Gastric Cancer 誌の編集・発刊。定期的に編集委員会を開催し、査読方針の統一を図っている。診断学、外科学、腫瘍内科学、病理学、分子生物学、疫学など多岐に渡る領域の論文を審査、掲載しており、2020年投稿論文数は947編にのぼり、最新のインパクトファクターは7.088とわが国の学会の機関誌としては高評価であった。

・胃癌取扱い規約の改訂・発刊。他臓器に先立って作成し、発刊した書物であり、現在では他の多くの臓器別学会において発刊され、診療、研究の共通の言語として役立てられるに至っている。第15版を2017年に発刊。現在第16版にむけての改定作業中である。

・胃癌治療ガイドラインの改訂・発刊。第5版を2018年に発刊、その後改定作業に入り、第6版を2021年6月に発刊予定である。ガイドラインも他臓器に先立って発刊が開始されており、伝統的に教科書形式で書かれていたが、第6版において初めて本格的に Minds のガイドライン作成マニュアル2017年版に準拠して作成された。改定の間生まれたエビデンス、特に抗がん剤を中心とした新規治療法・適正使用に関する情報はガイドライン作成委員会で速報を作成し、タイムリーにホームページ上で公開している。

・十二指腸癌治療ガイドライン第1版の作成・発刊。希少がん対策として厚生労働研究費で開始された新しいプロジェクトであり、日本肝胆膵外科学会とともに作成し、2021年7月に発刊予定である。

・胃癌登録事業を推進し、NCD登録データを利用した新たな胃癌登録体制を構築した。

・研究課題の公募と研究資金を含めた援助を介して、胃癌に関わる研究を推進した。

・胃癌学会総会の開催（年1回。2020年・2021年は新型コロナウイルス感染拡大のため完全web開催）、ならびに国際胃癌学会の開催への協力（隔年開催。2021年は延期）を行っている。

・本会総会では JGCA-CGCA Joint Seminar, JGCA-KGCA Joint Seminar を開催し、中国胃癌学会・韓国胃癌学会との交流を深めアジアにおける胃癌情報共有に寄与している。

・年に2回の市民公開講座の開催（2021年3月第93回総会時にwebで開催、2020年・2021年秋は新型コロナウイルス感染拡大のため中止）、アルファクラブ、希望の会などの胃癌患者会に対する協力（講演会での後援や講師派遣など）を積極的に行っている。今後は胃癌患者会などとの協力体制を一層強化し、一般市民を対象としたホームページの整備にもつ

とめていく方針である。

・これらの活動を通して胃癌の診断・治療に携わる国内外の医療従事者に対して知識・技術の普及・均てん化をはかる。一方で、胃癌の罹患数が減少していることから、これまでのようなもっとも一般的な悪性腫瘍というコンセプトからは脱却し、一定の専門性を身に着けた会員が活躍できるよう、施設認定制度を設立し、2022年度からの運用を目指して準備を進めている。

## II. 他の分科会との連携による活動

・日本消化器外科学会のデータベース関連学会協議会に参画し、NCD を利活用した研究を進めてきた。

### **本学会からの期待・要望**

COI 管理の方法、学会発表や論文発表における研究者の倫理など、医学研究を進める上で横断的に重要な事柄について、引き続きリーダーシップを取ってとりまとめ、学びの機会を作っていただきたい。

今後もわが国の医療、医学研究、医学教育をめぐるさまざまな政策についてのタイムリーな提言に期待している。

以上